



～外来リハ通信～

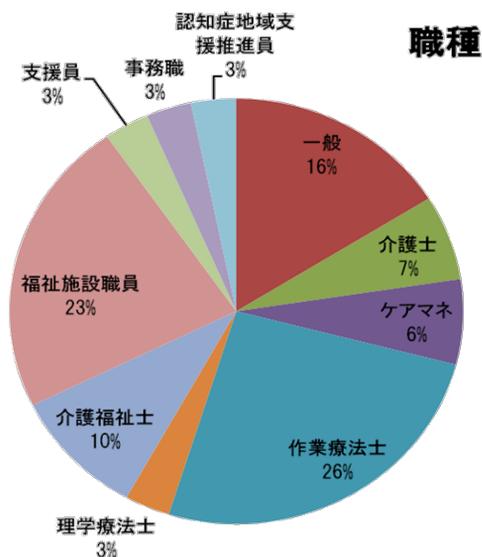
2013.07

第6回介助技術講習会を
7月13日（土）13:30～16:00に開催しました。

今回のテーマは・・・

「‘いいとこどり’の介護園芸療法 ～作業療法の考え方を有効活用する～」

講師には、九州保健福祉大学 保健科学部 作業療法学科 教授の小浦誠吾先生をお迎えしました。先生は、農学部園芸学科のご卒業ですが、学生の頃より園芸療法に興味をもたれ、現在は、作業療法学科の中で、心も身体も動かすことになる園芸療法を、認知症や障害をもった方々へのリハビリテーションという側面から教育やご講演を通じて広めていらっしゃいます。



リハビリテーション専門職、介護職、福祉関係から一般の方まで、さまざまな職種の方々にご参加頂き、年齢層も20代から70代と幅広い方々の参加がありました。

それでは・・・講演の内容を一部ご紹介します。

講習会は、リハビリテーションの1分野である「作業療法」についてのお話で始まりました。後半では「作業療法」の1技法として園芸療法を用いた効果について実際の例を示しながら講演していただきました。

作業療法の「作業」とは？

リハビリテーションの1つに作業療法があります。
「作業」＝「人が行うことで、その人や周囲の人々にとって意味のあること」です。
作業≡仕事する≡役割を果たす≡楽しむ・・・となり、その人が必要だと思っ
てもらえる役割、状況を作ってあげることが重要になってきます。

では、作業療法とは？

その人にとって意味のあると感じることができる活動を用いてリハビリテーションを行うのが作業療法です。ですから、作業療法は人の身体だけを対象とするのではなく身体も心も対象として行う療法なのです。

意味があると感じる活動とは？

意味があると感じる活動・・・それは、誰かに必要とされていると感じることのできる活動です。誰かに必要だと思ってもらえる状況(環境)、役割をもって頂くために行うリハビリテーションの全てが作業療法です。

作業療法の1技法としての園芸療法の効果は？

「園芸療法」は「人間と植物の関わりから生まれる効用」を活用して行う療法です。植物を育てるだけでなく、収穫し食すこと、さまざまなものに加工することなど、五感をフル活用して行う園芸療法は、心を動かし、自然と身体も動かすこととなります。園芸を通して他人や植物から必要とされることで、役割を感じ、自分の存在価値を感じることができ、幸福感が得られます。人生をより楽しいものに変えるためのリハビリテーション技術といえます。

参加してくださった皆様の声はアンケート結果をご覧ください！